

病防第131号
令和2年（2020年）2月17日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第3号を公表しましたので送付します。

特殊報

令和元年度（2019年度）発生予察特殊報第3号

令和2年（2020年）2月17日

熊本県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 ファレノプシス株枯病
- 2 病原菌 *Neocosmospora solani* (*Fusarium solani*)
- 3 発生作物 ファレノプシス（ラン科）
- 4 発生確認の経過
令和元年（2019年）11月、県内の施設栽培のファレノプシス（コショウラン）で、葉の基部が黒褐色に変色し、葉全体が萎れ、その後落葉する株が確認された。現場ほ場から検体を採取、菌分離し、農林水産省門司植物防疫所に同定依頼した結果、本病であることが判明した。
- 5 国内の発生状況
本病害は昭和63年（1988年）に沖縄県において、施設栽培のファレノプシス及びドリテノプシスで初めて確認された。また、平成26年（2014年）に栃木県でも発生が確認されている。
- 6 病徴
根および葉の基部に症状を呈し、根では乾腐症状を呈し黒褐色に変色する。葉の基部では灰白色～黒褐色に変色し（図1）、葉全体が萎れ、ついには脱落する。病斑部の表面には、しばしば赤褐色の子のう殻（図2）が形成され、多湿時には白色の菌糸（図2）も認められる。発病が激しい場合には株全体が萎凋して枯死する。苗での発生が多く、大きな株では短期間で枯死に至ることは少ないが、株全体の生育が劣る。
- 7 防除対策
 - 1) 本病に対する登録農薬はないため、発病株は見つけ次第ほ場外に持ち出し、適切に処分する。
 - 2) 発病株の植込み資材についてもほ場外で適切に処分し、再利用はしない。
 - 3) 栽培管理に使用する器具等は消毒して使用する。



図1 葉基部の病斑



図2 病斑上の子のう殻と菌糸

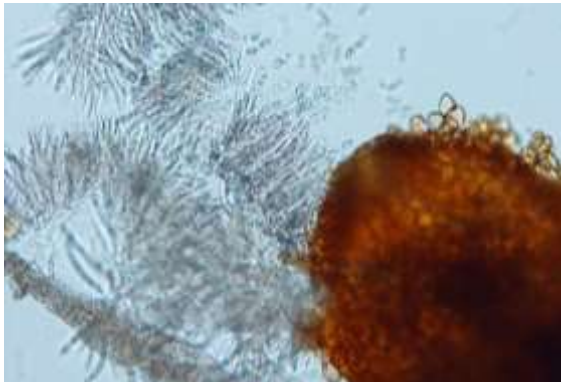


図3 子のう殻と子のう



図4 子のうと子のう胞子

問い合わせ先

熊本県病害虫防除所

〔 農業研究センター 生産環境研究所
病害虫研究室 予察指導係 〕

担当：齊藤、中村 TEL：096-248-6490